

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300483	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ川崎たちばな		
所在地	(〒213 -0023)		
	川崎市高津区子母口999		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果 市町村受理日	令和4年2月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先 <https://www.mimoza-care.jp/base/kawasaki-tachibana>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念そのままに、各ユニット9名のご利用者に寄り添った介護を提供しております。各フロア専従のスタッフが日々のご利用者様の様子に注意深く目をこらし、日々の状態の変化に対して職員間での相談や往診医の意見を聞きつつ、1つひとつ丁寧に対応しています。また、今年リフト浴を1台追加購入したことで、終の棲家としての重度者対応力がより向上しました。(これまでは併設看護小規模とグループホームでリフト浴が1台しかなく、車いすの方の入浴がスムーズに行えない面があった)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年12月2日	評価機関 評価決定日	令和4年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇理念の実践

・『私たちは、ご利用者様お一人おひとりに寄り添い、笑顔で穏やかに楽しく過ごして頂ける、「おうちのような」居心地の良いサービスを提供致します。』の理念から「①いつも笑顔と心ある声かけを行います②尊厳とその人らしさを大切にします③意思を尊重した介護を提供します④どんなときでも心にゆとりのある介護に努めます⑤最期まで喜んで頂ける介護を目指します」を事業所目標として決め、職員は利用者の日常生活支援のなかで実践している。

◇リフト浴での安心・安全な支援

・併設の看護小規模多機能型居宅介護と一緒にリフト浴が1台だったが、今期からグループホームにリフト浴が1台増えたことでリフト浴を利用する余裕ができ、介護度の高い利用者に職員が安心して入浴支援が出来る。

【事業所が工夫している点】

◇コロナ禍での感染症対策

・職員の検温、事業所内の消毒・換気、手洗い、うがい、マスク着用を日常化し、家族の面会は予約制で1か月1組2名、15分で実施している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ川崎たちばな
ユニット名	うめ

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作成された事業所理念を事務所内に掲示することをもって、職員間での理念の共有を行っています。また、毎月のフロア会議など機会があれば、理念を振り返るようにしています。	・「私たちは、ご利用者様お一人おひとりに寄り添い、笑顔で穏やかに楽しく過ごして頂ける、「おうちのよう」居心地の良いサービスを提供致します」の理念の基、職員はいつも笑顔と心ある声掛けで利用者支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、行えておりません。	・コロナ禍前は地域交流室で夏祭りやイベントで地域住民との交流があった。 ・地域自治会に加入している。 ・地域ボランティアの受け入れでマジックや傾聴ボランティアの訪問があった。現在は中止をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、「運営推進会議」は、書面開催となっており、書面開催の性質上どうしても現状報告がメインとなっています。ご家族と電話などで話す際に、意見を伺った際はそれになるべく応えられるようしています。	・コロナ禍で現在は開催で来ていない。書面で運営状況報告書を高津区役所、利用者家族に郵送している。 ・家族からコロナ禍での面会に対する意見があった。現在面会は予約制で月1回、1家族2人まで15分で実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、行えておりません。コロナ前に関しては、地域ケア会議とGH連絡会には出席し、横横での情報共有や相談をしておりました。	・生活保護課と生保受給者の情報交換をして共有し連携を図っている。 ・コロナ禍前は、川崎市グループホーム連絡会、地域密着型サービスが開催する地域ケア会議に参加していた。市や地域の情報交換をし、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1回「身体拘束廃止委員会」を実施し、身体拘束の発生を未然に防ぐよう話し合いを行っています。また、研修に関しては、年に2回30分研修を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束廃止委員会」を設置し2か月毎に開催している。事業所は研修を年2回実施し、会議録を回覧して職員に周知徹底をしている。 ・職員は「身体拘束廃止等の適正化のための指針」「身体拘束排除マニュアル」に沿って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、学ぶ機会を設けていますが、法律関係のことまでは触れられていません。ただし、虐待が法律で禁止されているようがいまいが、「あってはならないもの」ということは職員全員が心得ています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者虐待防止マニュアル」を作成し、職員同士で話し合い虐待に繋がらないケアを注意して行っている。 ・法人の取り組みで「虐待についてのアンケート」を職員全員が提出して検討し、防止に努めている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が後見人制度について自分で調べた上で、制度の必要と思われる方に関しては、制度活用の提案を行っています。職員に対して、学ぶ機会は特に用意しておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が書面を示しつつ説明を行い、理解しにく部分があれば適宜質問も受け付けています。特に金銭の絡む部分に関しては、無用なトラブル回避のため、丁寧な説明を心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状、運営推進会議が書面開催となっており、要望を表せる機会が乏しくなっている。その分、電話でお話する機会がある時などは、意見を聞くようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から年末年始の対応について相談があり、外泊の許可は出来ないが利用者の外出支援を決めている。 ・家族へ定期的に利用者の生活状況報告と写真を送り、意見や要望を聞いている。 ・外部の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、説明している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議にて意見を聞くとともに、全てではないが提案を実際の運営に反映させています。また、フロア会議に参加できない職員に対しても、極力提案をもらうよう普段から努めています。	・職員は管理者と1年に1回更新時に個別面談をして意見などを聞いている。 ・フロア会議で職員の要望で、リフト浴が1台増えた。2台になり介護度の高い利用者の支援に反映した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップのプランや、各種手当をもって職員各自が前向きに仕事に取り組める条件を整えています。社内の種々の人事関係の制度を説明した書類を1冊のファイルにまとめ誰でも読めるように配慮もしています。	・事業所は就業規則を含む人事関係規約をファイルにまとめて、何時でも閲覧できるようにしている。 ・各ユニットに職員用休憩室を備えている。事業所は職員の健康管理を介護職年1回、夜勤は年2回と検便を実施している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的な資格取得に関しては、受講費の補助や有資格者の待遇面での優遇をもって推進しています。法人内の研修は、毎月案内を施設内に掲示し、受講希望を募っています。	・入職時に無資格職員は、初任者研修取得の支援がある。 ・外部研修には、出勤扱いで受講できる制度がある。 ・新人職員にOJTの取り組みをし、ユニットリーダーまたは常勤職員が技術指導などを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ前の話になりますが、他社主催の管理者を集めた合宿に参加できる機会がありました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査の際に本人から不安や要望に関してヒアリングを行っています。また、ご家族やケアマネなどからも本人の要望や不安を教えてくださいようとしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査や施設見学時において、ご家族から要望や不安を事前にヒアリングしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援をグループホーム内で完結させることを原則としつつも、訪問マッサージなど個々の必要性に合わせた外部サービスの活用も検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ごとの様子状態を見つつ、職員が行う業務の一部を手伝っていただいています。 (濡れたお盆を拭いていただくなど)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意志を尊重しつつ、協力いただけることがあれば、助力をお願いしている。(差し入れなど)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらかたの積極的な働きかけはできていません。手紙や面会希望などがあれば対応しておりません。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の面会は1か月1回、予約制で1家族2名、15分で実施している。 ・コロナ禍前は、家族の付き添いで馴染みの店や、美容院、外食に出かけていた。 ・職員は電話、手紙の取次をしている。携帯電話使用者が1名いる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の相性を見つつ、話の合う方同士を近くの席とし、折り合いの悪い方同士は席を離すようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の主な理由は逝去または他施設への転居になっています。転居の場合は、転居先のケースワーカーと連絡取り合い、対応に注意すべき点などをお伝えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者から何か希望があれば、危険や無理のない範囲で応えるようにしています。また、自分で意思を示すことが難しい方に対しては、本人の様子をよく観察しつつ、苦痛や不快をなるべく減らすよう支援方法の見直しを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者との日常生活の会話から、思いや意向を把握し、送りノートで共有している。 ・利用者の要望で、食事形態の変更をした事例がある。 ・把握の困難な場合は観察をして、職員で相談して支援している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず入居前の訪問調査などで得た情報を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえたケアプランを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、現状の把握を行うとともに、その中で変化に気づくことがあれば、支援方法の見直しなどを検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に際しては、職員間で話し合った意見をそのベースに置くとともに、本人やご家族の意向も最大限尊重しています。完成した介護計画はご家族ご本人の同意を必ずいただいています。	・モニタリングは3か月毎に実施し、見直しの参考にしている。 ・介護計画作成時に家族と本人に意向を確認し、医師と看護師の意見を聞いて介護計画に反映している。 ・介護計画の個別支援は、趣味の活動を入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を適宜参照しつつ、見過ごせない変化があれば、介護計画や実際の介護の方法の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で出来ることにどうしても制限が付き物であるが、制限の範囲の中でも新たな楽しみを導入している。（最近だと2Fの編み物レク）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は現状で来ておりません。入居以降は、当施設の設備・職員をもって支援を行っております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、ご本人ご家族の希望になるべく沿うようにしている。（受診先や受診の可否、日時など） 受診先の希望が特にない場合には往診クリニックと相談の上受診先を決めている。	・利用者全員が協力医と契約している。訪問診療は内科医月2回、精神科医月1回、歯科医月1回、訪問看護師は毎週となっている。 ・通院は家族が同伴し、診察結果を口頭で報告し、職員は聞き取り結果を申し送りノートに記入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や隔週の訪問診療の際、医師や看護師の意見を聞くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万一、入院となった際には、入所してから入院に至るまでの経過など治療に役立つ情報を積極的に提供し、治療の円滑な推進と早期退院に繋がる手助けを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り期に入るとご利用者の説明に関しては、医師の助力もいただき丁寧に行っています。	・入所時に、マニュアルに沿って事業所方針を利用者と家族に説明し、同意を得ている。利用者が重度化したときは、医師、管理者、家族が面談し今後の方針を決めている。 ・30分研修で看取りケア研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回緊急対応に関する30分研修を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、万一の際には落ち着いて避難誘導ができるよう職員の教育と利用者様への説明を行っています。	・避難訓練は夜間想定1回を含め、年2回実施している。消防署の援助で水消火器を使った訓練を行った。 ・災害備蓄品は同館内にある小規模多機能施設と共同で、保存食を備え、共有ホルダーでリスト管理をしている。	・ハザードマップでは水害の危険が予想されています。訓練に水害対策を含むことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の気持ちに配慮し、他のご入居者の前で、直接的な表現を避けるなど自尊心を傷つけないよう工夫しています。（他のご入居者の前で「トイレに行きましょう」と大声で言うのは避ける）	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇マナー研修を年1回30分研修で行っている。 ・大声を出さない、書類を置き放しにしないなど管理者が気付いたときはその場で注意をしている。 ・個人情報に関する書類は事務所で施錠管理している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからは、なるべく選択肢を提示するのみで最終決定はご利用者に任せるなど、ご利用者が主体的に毎日を過ごせるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に加え、なかなか希望を伝えるのが困難な方に関しては、こちらから様子を観察しつつ働きかけ、なるべく快適にお過ごしいただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら整容される方に対しては、極力職員は干渉しないようにしています。整容を自らするのが難しい方に対しては、職員が季節感や本人の好みを踏まえた上で服を用意します。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にお盆拭きやテーブル拭きなど無理のない範囲でお手伝いをお願いしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理済み食材は業者から配達され、事業所ではご飯、味噌汁のみを作っている。イベント時にはメニューを中止し、流しソーメン、クリスマス料理などを出している。 ・利用者に甘いものなどの好みを聞き、おやつで満足して貰っている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の様子を見ながら、食形態の変更を行い食事を美味しく召し上がっていただけるようしています。また、水分に関しては、摂取量が少ない方に、様々な飲み物を提供してみたり、定時外でもこまめに水分を提供するなど注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方に関しても、極力、ご本人に出来ることはお任せし、職員が介助するのを、必要最小限に抑えています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なおむつ使用は避け、極力トイレにて排泄できるよう、定時でのトイレ誘導を行っています。	・トイレ誘導は起床時、食事前、就寝前の定時誘導を行っている。その他利用者の様子でトイレ誘導を行っている。 ・改善事例はなく、現状維持を保つよう、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便の日数記録し、便秘傾向のある方に関しては、往診Dr.に相談の上、お通じをよくする薬を処方していただいています。また、ご利用者の中には、便秘時に訪問マッサージで歩行訓練を行っている方もいらっしゃいます。（普段、車椅子）		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様のその日の様子や希望を踏まえた上で、入浴予定の曜日であっても前後にずらすなど、柔軟な対応を行っています。	・入浴は週2回、原則午前中としているが、利用者の体調によっては予定を変更する場合もある。 ・リフト浴を1台追加し、2Fで2名、3Fで3名の車椅子利用者が入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとに午睡の時間を設けるなど、適宜夜の睡眠以外にもベッドに横になっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	隔週の往診において、ご利用様の状態の変化に応じ薬の種類や容量の変更などを相談し、薬の効用を把握した上で、各人にあった薬の処方に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細々とした作業が好きで今でも手先の器用な方に編み物をしていただくなど、その人の嗜好や個性を活かした楽しみを提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出は禁止としております。今後の社会情勢を見ながら段階的に外出を再開予定です。	・現在は外出できず、ベランダでの外気浴、短い距離の散歩のみとなっており、利用者の体力低下が心配される。体力維持を図るため、館内の長い廊下を使ったウォーキング、遠いトイレを利用、体操、民謡に合わせた踊り等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者全員が認知症をお持ちということもあり、お金に関しては施設管理としています。ご本人が必要とするものがあれば、ご家族とも相談の上購入するようしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、携帯を持っている方もおり、個人の判断でやり取りをしていただいております。 お手紙に関しては、やりとりを行っている方はいません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出もできず、どうしても季節感を感じにくくなっていますので、施設内飾りつけを通じ少しでも四季を感じていただけるようにしています。 また、清掃消毒も毎日かかさず行っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間の温度・湿度は利用者の体感に合わせ細目に調節している。 ・リビング壁に利用者と職員が共同制作した飾りつけを掲示している。 ・清掃は早番職員が行い、夜勤職員は消毒を行っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席の配置に関しては、自立度の高い人同士を近くに配置するなど、相互の相性を見て工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のレイアウトに関しては、極力ご利用者様の意思を尊重し、各人にお任せしています。一人ではお部屋の整理などが難しい方に関しては、職員が介入しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、ベッド、カーテン、クローゼット、チェストを事業所が整え、利用者はTV, 家族写真、ぬいぐるみ等好きな物を持ち込んでいる。 ・居室の清掃はリビングと合わせて当番の職員が行い、居室担当者は部屋の整理・整頓を行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	もともと1F看護小規模と2F3Fグループホームで共用のリフト浴1台しかなかったのですが、新たにもう1台購入し車イスの方もお風呂に入りやすい体制を整えました。		

事業所名	ミモザ川崎たちばな
ユニット名	すいせん

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作成された事業所理念を事務所内に掲示することをもって、職員間での理念の共有を行っています。また、毎月のフロア会議など機会があれば、理念を振り返るようにしています。	・「私たちは、ご利用者様お一人おひとりに寄り添い、笑顔で穏やかに楽しく過ごして頂ける、「おうちのような」居心地の良いサービスを提供致します」の理念の基、職員はいつも笑顔とあたたかい声掛けで利用者支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、行えておりません。	・コロナ禍前は地域交流室で夏祭りやイベントで地域住民との交流があった。 ・地域自治会には加入している。 ・地域ボランティアの受け入れでマジックや傾聴ボランティアの訪問があったが現在は中止をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、「運営推進会議」は、書面開催となっており、書面開催の性質上どうしても現状報告がメインとなっています。ご家族と電話などで話す際に、意見を伺った際はそれになるべく応えられるようにしています。	・コロナ禍で現在は書面で運営状況報告書を高津区役所、利用者家族に郵送している。 ・家族からのコロナ禍での面会に対する意見を検討し、現在面会は予約制で月1回、1家族2人まで15分で実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、行えておりません。コロナ前に関しては、地域ケア会議とGH連絡会には出席し、横横での情報共有や相談をしておりました。	・生活保護課と生保受給者の情報を交換共有して、連携を図っている。 ・コロナ禍前は、川崎市グループホーム連絡会、地域密着型サービスが開催する地域ケア会議に参加していた。市や地域の情報交換をし、協力関係を築いていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	2か月に1回「身体拘束廃止委員会」を実施し、身体拘束の発生を未然に防ぐよう話し合いを行っています。また、研修に関しては、年に2回30分研修を行っています。	・「身体拘束廃止委員会」を設置し2か月毎に開催している。職員研修を年2回実施し、会議録を回覧して職員に周知徹底をしている。 ・職員は「身体拘束廃止等の適正化のための指針」「身体拘束排除マニュアル」に沿って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、学ぶ機会を設けていますが、法律関係のことまでは触れられていません。ただし、虐待が法律で禁止されているようがいまいが、「あつてはならないもの」ということは職員全員が心得ています。	・「高齢者虐待防止マニュアル」を作成し、職員同士で話し合い虐待に繋がらないケアに努めている。 ・法人から「虐待についてのアンケート」を実施し、職員全員が回答して虐待防止について職員の意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が後見人制度について自分で調べた上で、制度の必要と思われる方に関しては、制度活用の提案を行っています。職員に対して、学ぶ機会は特に用意しておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が書面を示しつつ説明を行い、理解しにく部分があれば適宜質問も受け付けています。特に金銭の絡む部分に関しては、無用なトラブル回避のため、丁寧な説明を心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状、運営推進会議が書面開催となっており、要望を表せる機会が乏しくなっている。その分、電話でお話する機会がある時などは、意見を聞くようにしています。	・家族から年末年始の対応について相談があり、外泊の許可はできないが利用者の外出は認めた。 ・家族へ定期的に利用者の生活状況報告と写真を送り、意見や要望を聞いている。 ・外部の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議にて意見を聞くとともに、全てではないが提案を実際の運営に反映させています。また、フロア会議に参加できない職員に対しても、極力提案をもらうよう普段から努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員と年1回個別面談をして意見・要望を聞いている。 ・フロア会議での要望で、リフト浴が1台増えた。2台になり介護度の高い利用者の支援に反映した。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップのプランや、各種手当をもって職員各自が前向きに仕事に取り組める条件を整えています。社内の種々の人事関係の制度を説明した書類を1冊のファイルにまとめ誰でも読めるように配慮もしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則を含む人事関係規約をファイルにまとめて、何時でも閲覧できるようにしている。 ・各ユニットに職員用休憩室を備えている。事業所は職員の健康管理を介護職年1回、夜勤者には年2回の検便を実施している。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的な資格取得に関しては、受講費の補助や有資格者の待遇面での優遇をもって推進しています。法人内の研修は、毎月案内を施設内に掲示し、受講希望を募っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入職時に無資格職員は、初任者研修取得の支援がある。 ・外部研修には、出勤扱いで受講できる制度がある。 ・新人職員にOJTの取り組みをし、ユニットリーダーまたは常勤職員が指導をしている。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ前の話になりますが、他社主催の管理者を集めた合宿に参加できる機会がありました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問調査の際に本人から不安や要望に関してヒアリングを行っています。また、ご家族やケアマネなどからも本人の要望や不安を教えてくださいようとしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査や施設見学時において、ご家族から要望や不安を事前にヒアリングしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援をグループホーム内で完結させることを原則としつつも、訪問マッサージなど個々の必要性に合わせた外部サービスの活用も検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ごとの様子状態を見つつ、職員が行う業務の一部を手伝っていただいています。 (濡れたお盆を拭いていただくなど)		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意志を尊重しつつ、協力いただけることがあれば、助力をお願いしている。(差し入れなど)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらかたの積極的な働きかけはできていません。手紙や面会希望などがあれば対応しておりません。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の面会は1か月1回、予約制で1家族2名、15分で実施している。 ・コロナ禍前は、家族の付き添いで馴染みの店や、美容院、外食に出かけていた。 ・職員は電話、手紙の取次をしている。携帯電話使用者が1名いる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の相性を見つつ、話の合う方同士を近くの席とし、折り合いの悪い方同士は席を離すようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の主な理由は逝去または他施設への転居になっています。転居の場合は、転居先のケースワーカーと連絡取り合い、対応に注意すべき点などをお伝えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者から何か希望があれば、危険や無理のない範囲で応えるようにしています。また、自分で意思を示すことが難しい方に対しては、本人の様子をよく観察しつつ、苦痛や不快をなるべく減らすよう支援方法の見直しを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者との日常生活の会話の中から、思いや意向を把握し、送りノートで共有している。 ・利用者の要望で、食事形態の変更をした事例がある。 ・思いや意向が把握困難な場合は観察をして、職員間で相談しながら支援している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず入居前の訪問調査などで得た情報を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえたケアプランを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、現状の把握を行うとともに、その中で変化に気づくことがあれば、支援方法の見直しなどを検討しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に際しては、職員間で話し合った意見をそのベースに置くとともに、本人やご家族の意向も最大限尊重しています。完成した介護計画はご家族ご本人の同意を必ずいただいています。	・モニタリングは3か月毎に実施し、見直しの参考にしている。 ・介護計画作成時に家族と本人に意向を確認し、医師と看護師の意見を聞いて介護計画に反映している。 ・介護計画の個別支援は、趣味の活動を入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を適宜参照しつつ、見過ごせない変化があれば、介護計画や実際の介護の方法の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で出来ることにどうしても制限が付き物であるが、制限の範囲の中でも新たな楽しみを導入している。（最近だと2Fの編み物レク）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は現状で来ておりません。入居以降は、当施設の設備・職員をもって支援を行っております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、ご本人ご家族の希望になるべく沿うようにしている。（受診先や受診の可否、日時など） 受診先の希望が特にない場合には往診クリニックと相談の上受診先を決めている。	・利用者全員が協力医と契約している。訪問診療は内科医月2回、精神科医月1回、歯科医月1回、訪問看護師は毎週となっている。 ・通院は家族が同伴し、診察結果を口頭で報告し、職員は聞き取り結果を申し送りノートに記入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や隔週の訪問診療の際、医師や看護師の意見を聞くようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	万一、入院となった際には、入所してから入院に至るまでの経過など治療に役立つ情報を積極的に提供し、治療の円滑な推進と早期退院に繋がる手助けを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り期に入るとご利用者の説明に関しては、医師の助力もいただき丁寧に行っています。	・入所時に、マニュアルに沿って事業所方針を利用者と家族に説明し、同意を得ている。利用者が重度化したときは、医師、管理者、家族が面談し今後の方針を決めている。 ・30分研修で看取りケア研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回緊急対応に関する30分研修を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施し、万一の際には落ち着いて避難誘導ができるよう職員の教育と利用者様への説明を行っています。	・避難訓練は夜間想定1回を含め、年2回実施している。消防車の援助で水消火器を使った訓練を行った。 ・災害備蓄品は同館内にある少規模多機能施設と共同で、保存食を備え、共有ホルダーでリスト管理をしている。	・ハザードマップでは水害の危険が予想されています。訓練に水害対策を含むことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の気持ちに配慮し、他のご入居者の前で、直接的な表現を避けるなど自尊心を傷つけないよう工夫しています。（他のご入居者の前で「トイレに行きましょう」と大声で言うのは避ける）	・接遇マナー研修を年1回30分研修で行っている。 ・大声を出さない、書類を置き放しにしないなど管理者が気付いたときはその場で注意をしている。 ・個人情報に関する書類は事務所で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからは、なるべく選択肢を提示するのみで最終決定はご利用者様に任せるなど、ご利用者が主体的に毎日を過ごせるよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に加え、なかなか希望を伝えるのが困難な方に関しては、こちらから様子を観察しつつ働きかけ、なるべく快適にお過ごしいただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら整容される方に対しては、極力職員は干渉しないようにしています。整容を自らするのが難しい方に対しては、職員が季節感や本人の好みを踏まえた上で服を用意します。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にお盆拭きやテーブル拭きなど無理のない範囲でお手伝いをお願いしています。	・調理済み食材は業者から配達され、事業所ではご飯、味噌汁のみを作っている。イベント時にはメニューを中止し、流しソーメン、クリスマス料理などを出している。 ・利用者に甘いものなどの好みを聞き、おやつで満足して貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の様子を見ながら、食形態の変更を行い食事を美味しく召し上がっていただけるようしています。また、水分に関しては、摂取量が少ない方に、様々な飲み物を提供してみたり、定時外でもこまめに水分を提供するなど注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方に関しても、極力、ご本人に出来ることはお任せし、職員が介助するのを、必要最小限に抑えています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易なおむつ使用は避け、極力トイレにて排泄できるよう、定時でのトイレ誘導を行っています。	・トイレ誘導は起床時、食事前、就寝前の定時誘導を行っている。その他利用者の様子でトイレ誘導を行っている。 ・改善事例はなく、現状維持を保つよう、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	未排便の日数記録し、便秘傾向のある方に関しては、往診Dr.に相談の上、お通じをよくする薬を処方していただいています。また、ご利用者の中には、便秘時に訪問マッサージで歩行訓練を行っている方もいらっしゃいます。（普段、車椅子）		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様のその日の様子や希望を踏まえた上で、入浴予定の曜日であっても前後にずらすなど、柔軟な対応を行っています。	・入浴は週2回、原則午前中としているが、利用者の体調によっては予定を変更する場合もある。 ・リフト浴を1台追加し、2Fで2名、3Fで3名の車椅子利用者が入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとに午睡の時間を設けるなど、適宜夜の睡眠以外にもベッドに横になっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	隔週の往診において、ご利用者の状態の変化に応じ薬の種類や容量の変更などを相談し、薬の効用を把握した上で、各人にあった薬の処方に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	細々とした作業が好きで今でも手先の器用な方に編み物をしていただくなど、その人の嗜好や個性を活かした楽しみを提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出は禁止としております。今後の社会情勢を見ながら段階的に外出を再開予定です。	・現在は外出できず、ベランダでの外気浴、短い距離の散歩のみとなっており、利用者の体力低下が心配される。体力維持を図るため、館内の長い廊下を使ったウォーキング、遠いトイレを利用、体操、民謡に合わせた踊り等を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者全員が認知症をお持ちということもあり、お金に関しては施設管理としています。ご本人が必要とするものがあれば、ご家族とも相談の上購入するようしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、携帯を持っている方もおり、個人の判断でやり取りをしていただいております。 お手紙に関しては、やりとりを行っている方はいません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出もできず、どうしても季節感を感じにくくなっていますので、施設内飾りつけを通じ少しでも四季を感じていただけるようにしています。 また、清掃消毒も毎日かかさず行っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間の温度・湿度は利用者の体感に合わせ細目に調節している。 ・リビングの壁に利用者と職員が共同制作した飾りつけを掲示している。 ・清掃は早番職員が行い、夜勤職員は消毒を行っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席の配置に関しては、自立度の高い人同士を近くに配置するなど、相互の相性を見て工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のレイアウトに関しては、極力ご利用者様の意思を尊重し、各人にお任せしています。一人ではお部屋の整理などが難しい方に関しては、職員が介入しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコン、ベッド、カーテン、クローゼット、チェストを事業所が整え、利用者はTV, 家族写真、ぬいぐるみ等好きな物を持ち込んでいる。 ・居室の清掃はリビングと合わせて当番の職員が行い、居室担当者は部屋の整理・整頓を行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	もともと1F看護小規模と2F3Fグループホームで共用のリフト浴1台しかなかったのですが、新たにもう1台購入し車イスの方もお風呂に入りやすい体制を整えました。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ川崎たちばな

作成日 令和3年11月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2, 3	コロナの関係もあり、地域との交流らしい交流ができていない。	地域に対して交流・貢献の機会を持つ。	1Fの地域交流室を使い、最低年1回は地域の人も読んで催しを行う。	1年（コロナの収束状況による）
2	40	食事は湯煎となっており、作り手による味のブレが少ないというメリットがある。その一方でどうしても食感や味の面で湯煎の限界が出てしまう。（例：揚げ物全般）	毎日同じような食事ばかりでなく、時々贅沢な食事も召し上がっていただく。	クリスマスなどイベントごとの際には、普段食べられない（湯煎では提供し辛い）メニューを提供する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。